



### 1. 公共交通

#### 1 - 1 基本的な考え方

札幌市における公共交通の整備延長および運行状況については、ネットワークの観点からみると一定の水準に達していると考えられますが、その利用者は減少傾向にあります。

また、バス交通については2004年度（平成16年度）からすべて民営化されるなど、国内の他都市と同様、現行のサービス水準をどのように維持するかの議論が始まっている状況にあります。

このような状況の中で、人と環境を重視した新しい時代の都心交通の実現に向けては、持続可能な交通システムとして公共交通をいかに活用するかが重要です。過度に自動車に依存するライフスタイルに対する共通認識を市民全体で醸成しつつ、車中心から歩行者優先へのスムーズな転換を進めるうえで利用促進が期待される環境にもやさしい公共交通の充実を進めることが必要です。

都心交通計画は、都心部における快適な歩行環境と円滑な自動車交通を共に実現し、都心の魅力向上と活性化を交通面から支えることを目標としており、定時性の確保など信頼性が高く、質の高い、誰にでも親しまれる交通システムの実現に向けて、特に都心へのアクセス機能の向上策や都心内におけるサービス向上策などの施策展開を進めることが必要です。

#### 都心アクセス機能の向上

- ・料金システムの充実
- ・既存交通機関の有効活用
- ・乗り継ぎの円滑化

#### 都心内サービスの向上

- ・回遊機能の強化
- ・ターミナル機能の改善

## 1 - 2 都心アクセス機能の向上

公共交通による都心へのアクセス機能の向上策としては、自宅や事業所などの出発地から都心へ至るまでの経路全体で利用者視点によるサービス改善が重要であり、実現可能なソフトとハード両面の取り組みが必要です。

具体的には、利用しやすい料金制度や運営体制などシステムの改善が第一に求められています。その上で、地下鉄、JR、路線バスなど一定の水準に達している交通機関以外の既存交通機関の更なる有効活用を図るとともに、各機関が有機的に連携可能となる乗り継ぎの円滑化などの施策展開が必要です。

### (1) 料金システムの充実

都心への交通手段として公共交通が十分に活用されるために、事業者間の連携強化のもと、市民の関心が高く、要望の多い料金サービスの改善や、乗り継ぎの円滑化と乗車カードの多機能化を図るICカード<sup>25</sup>の導入など、公共交通システムの充実に取り組みます。

#### 利用しやすい料金サービスの実現

海外を含めた他都市の事例を参考にしつつ、都心へのアクセスのみならず、都心内における利用しやすい料金サービスの実現に向けて、事業者とともに取り組みを進めます。

#### ICカードの導入

料金収受にかかる時間短縮や他の交通機関との乗り換えなどにおける利便性の向上はもとより、公共施設の利用や商業施設での買物利用など、日常生活における快適性、利便性の向上と公共交通の利用との間で様々な連携が期待できる、ICカードの導入を事業者とともに進めます。

#### 事業者間の連携

利用者の視点に立った公共交通サービスを提供するために、より利用しやすい料金サービスの実現やICカードの導入について、事業者間の連携強化に取り組みます。

---

<sup>25</sup> ICカード：一般にはクレジットカード等と同形状のプラスチックカードに、マイクロプロセッサやメモリーなどのIC(Integrated Circuit:集積回路)チップを内蔵したもので、利用額や乗降情報などのコントロールおよび記憶を可能にしているカード。

## ( 2 ) 既存交通機関の有効活用

### 路面電車の活用

路面電車は都心と沿線地域とを結ぶ市民の重要な足として利用されています。また、沿線地域は近年人口回帰現象が著しく、今後も人口増加が見込まれる地域です。

このため、魅力ある都心の創造や都心居住の進展に寄与する都市の装置として、都心へのアクセス性を高めるとともに、人にやさしく利用しやすい交通手段として路面電車を有効に活用するための環境整備を検討します。

### 優先信号システムの導入

定時性や速達性を確保して利便性を向上するため、信号待ち時間の短縮に向けた路面電車優先信号システム<sup>26</sup>の導入を検討します。

### 電車通の整備、低床車両の導入

自動車交通との共存を図りつつ、更に有効に活用するため、架線の整序化や停留所のバリアフリー化などに向けた電車通の整備や低床車両の導入などを検討します。

### タクシーの活用

タクシーは、機動性、随意性に優れていることから、観光タクシーや高齢者、障がいのある方に対応した介護タクシーなど、多様なニーズに応じたサービスの提供が期待されています。

一方で、都心部における客待ちタクシーと他の自動車交通が輻輳（ふくそう）するなどの交通問題も顕在化していることから、適切な運行管理や乗り場の配置および各種サービスの充実に向けた取り組みを事業者とともに進めます。

### G P S - A V M配車システム<sup>27</sup>の活用

都心における客待ちタクシーの整序化に向けて、衛星を利用したタクシーの位置情報を把握し、効率的な配車が可能となるシステムの活用を事業者とともに進めます。

### 適切なタクシー乗り場の配置と適正な運用

都心部の自動車交通の円滑化とタクシーの利便性を確保するためには、適切なタクシー乗り場の配置を検討するとともに、事業者とともに巡回指導などによる適正な運用の徹底に取り組みます。

<sup>26</sup> 路面電車優先信号システム：路面電車の信号待ち時間を短縮するため、電車の接近を感知して青時間を延長したり、赤時間を短くしたりする方法や、電車の通行に合わせて信号の変わるタイミングを設定する方法などにより、電車の利便性向上を目的とした信号システム。

<sup>27</sup> G P S - A V M配車システム：(Global Positioning System - Automatic Vehicle Monitoring)衛星を利用してタクシーの位置情報を把握し、配車を効率的に行なうシステム。

高齢者，福祉サービスの充実

高齢者や障がいのある方など移動制約者にとっては，タクシーは重要な公共交通機関であることから，福祉車両などの更なる充実に事業者とともに取り組みます。

### (3) 乗り継ぎの円滑化

#### 交通情報提供システムの充実

乗り継ぎの円滑性を高めるには，国際性が高く誰にでもわかりやすい公共交通に関する情報サービスの提供が必要であり，地下鉄，JR，バスなどといった運営主体の垣根を越えた，総合的な情報提供が可能となるシステム構築が必要です。

このため，インターネットや携帯電話を有効に活用した情報提供のシステム化を図るとともに，主要な交通結節点においては集約された情報提供が可能な総合案内施設の設置を進めるなど，情報提供システムの充実に取り組みます。

#### パークアンドライド（P & R）駐車場<sup>28</sup>の活用

P & R 駐車場は，自動車の利便性を保持しながら，公共交通への乗り継ぎの利便性を向上して自動車の都心乗り入れを抑制する交通需要管理（TDM）の主要な施策として取り組みを進めてきました。

今後もバス等の公共交通機関とのバランスを図りながら，民間支援などを継続することで平日の通勤交通を対象としたP & R駐車場の整備を拡充するとともに，休祭日における都心部の駐車需要を適正に分散させるために時間貸しなど既存施設の有効活用に取り組みます。

## 1 - 3 都心内サービスの向上

都心の魅力向上や活性化に向けて，都心での多様な社会活動（アクティビティ<sup>29</sup>）をさらに高めることが求められており，都心内移動の円滑化に資する公共交通のサービス向上が重要です。

このため，都心内の公共交通の利便性を高め，回遊機能を強化するとともに，都心内にある交通結節点のターミナル機能の改善を進める必要があります。

<sup>28</sup> P & R 駐車場：自宅から地下鉄などの駅までマイカーを利用し，駅近くに駐車して（Park），地下鉄などに乗り継いで（Ride）目的地に至る方法をいい，マイカー通勤者などが，スムーズに公共交通機関に乗り換えられるように，地下鉄駅周辺などに設けられた駐車場。

<sup>29</sup> アクティビティ：憩い集うだけでなく，魅力と活力を高める人々の多様な社会活動のこと。

## ( 1 ) 回遊機能の強化

### バス走行環境の改善

都心内の重要な移動手段であるバスの定時性確保など走行環境の改善に向けて、一般車両の流入や駐停車車両により交通混雑が発生している既存バスレーンの運用徹底などに取り組みます。

### バス待ち環境の改善

都心部におけるバスの利便性向上に向けて、イライラを無くすためのバスロケーションシステム<sup>30</sup>の導入や、雨、風、雪をしのげる上屋付きバス停などのバス待ち環境の改善に事業者とともに取り組みます。

### 都心循環バスなどの導入

都心内における回遊性の強化に向けては、快適で円滑な公共交通による移動手段の導入が必要です。輻輳する交通と共存可能であり、人と環境を重視した都心の魅力向上にも寄与する都心循環バスについて、社会実験等の取り組みを進めます。

## ( 2 ) ターミナル機能の改善

### 総合的な情報提供の充実

都心の交通結節点において、乗車地点、券売機、改札口などの位置情報や、ダイヤ、運賃など乗り継ぎ交通機関の運行情報、都心部を中心とした観光案内など、利用者に対して分かりやすい総合的な情報提供に取り組みます。

### ターミナル施設のバリアフリー化<sup>31</sup>

高齢者や障がいのある方など移動制約者のニーズに対応する配慮が必要不可欠であることから、誰もが安心安全に施設を利用できる、人にやさしい交通サービスの提供を図るため、昇降施設の設置や視覚障がい者誘導用ブロックなど、施設のバリアフリー化の取り組みを継続します。

---

<sup>30</sup> バスロケーションシステム：バス停の表示器が接近するバスからの信号を受信し、バスの系統や行き先、現在位置などをバス停に表示し、利用者に知らせることで、バス待ち環境の改善を図るシステム。

<sup>31</sup> バリアフリー化：公共建築物や道路、住宅などで高齢者や障がいのある方にも配慮された設計。